

9：校内連携①（小学校）

取組内容	テーマ	新しい学校生活様式 ～〇〇小学校学校Ver～		
	取組に至った経緯	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のために教職員と児童が共通して取り組む事項をまとめた。3つの避けるべき条件（換気の悪い密閉空間、多くの人々が密集、近距離での会話や発声）や授業中、休み時間、給食等、学校生活において感染防止対策を講じる場面について独自の生活様式を作成した。</p> <p>校内掲示や配布をすることで、児童が視覚的に捉えやすくなり、保護者や地域への共通理解を図ることにも繋げた。</p>		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	<p>学校生活で取り組むべき内容を精査することで、休校後の登校から感染防止対策をスムーズに講じるきっかけができた。</p> <p>感染状況、実態、季節等に合わせ、更新しながら感染防止の行動をとることができた。</p>		
	課題等	<p>生活の中で慣れが生まれ、感染防止に対する危機感が薄れてきた。通常の学校生活を意識しながら、感染対策を徹底する意識を高めたり、維持したりする手立てが更に必要だと感じる。</p>		

「新しい学校生活様式」

1 新型コロナウイルス感染拡大防止のための取組

国や県の通知等を参考に、本校の実態に応じた独自の「新しい学校生活様式」を作成した。感染状況や季節ごとにバージョンを更新し、情報発信を行った。



登校後すぐ
確認できる
位置に掲示

安心
安全な
学校

本校学校医の先生にご指導をいただきながら、本校の実態に応じた「新しい学校生活様式」を作成した。ウイルスを体の中に入れないための工夫があり、家庭と協力しながら実践に取り組んできた。家庭に向けてプリントを配布し、学校での取組についても理解してもらえるようにした。
校内では、各学年のフロアや教室等に掲示し、全校で統一した指導が行えるようにした。

新しいがっこうせいかつようしき
学校生活様式

新型コロナウイルス感染の拡大を防ぐために、こどもの「新しい学校生活様式」を身に付けられるよう心がけましょう。

基本的な学校生活様式 感染を拡げないために一人一人が心がけよう！

 人の間隔を空けよう (密にならないように)	 正しくマスク着用 (紐などをとばさない)	 丁寧な手洗い (リセットしよう)
------------------------------	-----------------------------	-------------------------

登校前	登下校	学校生活の中で
 体温を測ろう	 話をせず 友達と近づきすぎない	 目・鼻・口は手で触れない マスクは新しく
授業中	休み時間	給食
 話し合いや発表するときは マスクをつけて	 みんなが使う物に触ったら 石鹸で手を洗う	 前を向いてもくもく(お話をしないで)食べよう

令和2年6月1日
健康で安全に生活しよう

小学校

新しいがっこうせいかつようしき
学校生活様式
Version 3

新型コロナウイルス感染の拡大を防ぐために、こどもの「新しい学校生活様式 Ver. 3」をさらに身に付け、一人一人が頑張りましょう。

基本的な学校生活様式 感染を拡げないためにみんなの間隔を高めよう！

 マスクは必ずつける ☆外してよい時間は、水分補給・給食のみ	 密をつくらない ☆人の体や物に触れない、触らない	 休みの時ごと石鹸で手洗い ☆全員が必ず行い、ハンカチで手を拭く
 話し合い活動をするときは マスクをつけて5分まで 人数は4人以下で行う	 休みの時はマスクを付けて運動する (外したらしゃべらない)	 換気の徹底 校庭側・廊下側の上窓2か所 こまめな空気入れ替え
 目・鼻・口は手で触れない 体内にウイルスを入れない	 こまめな手洗い みんなが使う物に触ったら石鹸で手を洗う	 せまいに話さない

令和3年1月12日
健康で安全に生活しよう

小学校

新しいがっこうせいかつようしき
学校生活様式
Version Summer

熱中症予防のためにマスクを外すときがあります。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、「どうすればよいのか」を1人1人が考えていきましょう。

熱中症を防ぐ学校生活様式 水分補給を忘れずに！こまめに水分をとろう！

 体育の時はマスクをはずして運動する (間隔を広くとろう)	 休み時間に外で遊ぶときは、マスクをはずし、友達との距離をとって遊ぼう	 暑い日の登下校はマスクをはずしておしゃべりしないで 1列でまこう
--	---	--

感染を拡げないためにみんなで考えて行動しよう！

 校内でマスクはつける ☆校内で外してよい時間は水分補給・給食のみ	 休みの時ごと石鹸で手洗い ☆全員が必ず行い、ハンカチで手を拭く	 換気の徹底 校庭側・廊下側の上窓2か所 こまめな空気入れ替え
 目・鼻・口は手で触れない 体内にウイルスを入れない	 こまめな手洗い みんなが使う物に触ったら石鹸で手を洗う	 せまいに話さない

令和3年6月21日
健康で安全に生活しよう

小学校

9：校内連携②（小学校）

取組内容	テーマ	保護者・職員との連携「基本に立ち返り、万全を期す」について
	取組に至った経緯	<p>令和元年度に新型コロナウイルスが出現してまだよく分かっていない頃、その得体の知れなさに驚き、誰もが不安を募らせていた。</p> <p>その後、徐々に予防法について分かりだし、ソーシャルディスタンス・3密等の対応に皆が終始した。感染状況や予防対応など、劇的に変化した部分もあるが、基本は、体に入れないこと。体内に入っても戦える抵抗力をつけることと考える。</p> <p>手洗い・うがい・換気・人との距離をとる・食事内容に気をつけ・睡眠を確保し・小まめに動く。若干忘れがちになっているこれらの基本に立ち返って、学校のホームページや保健だより、職員打ち合わせや保健部会等にて、保護者や職員に働きかけている。</p>
	実施時期	年間
成果と課題	成果	著しい勢いで日本に感染が広がっている今（令和3年夏現在）、「自分ができることは何か」を考え、注意喚起を積極的に行う。目標であり、成果ではないが、その事が功を奏するように努力していきたい。
	課題等	<p>児童が夏休み明けに登校した際に、放送や保健だより等の配付をとおして働きかける。きめ細かな対応や保健教育案の作成と学級での実施を依頼する。</p> <p>もし臨時休校等になれば、手立ての選択幅が減るが、発信し続けたい。</p>

9：校内連携③（小学校）

取組内容	テーマ	夏休み明けの感染防止対策～教職員向けのお便りから児童の指導へ～		
	取組に至った経緯	マスクはしているが鼻を出している児童や教職員がいる実態があり、感染症対策の研修から得た知識をまとめ教職員へ発信した。併せて児童用にパワーポイント資料を作成し、始業式後に全校児童に伝えた。また、修学旅行のオリエンテーションでは、バス等の狭い空間で過ごす時間が長くなることから、不織布マスク着用の意義と効果について伝えた。		
成果と課題	実施時期	令和3年度 2学期	補足資料	有
	成果	教職員全員が不織布マスクを着用するようになった。熱中症も意識して換気の仕方を変えてくれるようになった。マスクが下がって鼻が出ると、マスクを上げる児童の姿が多く見られるようになった。		
	課題等	指導の直後は意識が高まるが、それを継続していくことが課題となるため、繰り返し指導する中で、興味関心を高められるエッセンスを加えていきたい。		

【補足資料】9：校内連携③（小学校）

「夏休み明けの感染症予防と熱中症予防対策 ～教職員向けのお便りから児童の指導へ～」

1 保健室から先生方へのお便り

保健室より先生方へ 令和3年8月24日保健室

夏休みの研修で新型コロナウイルス感染症の対応について情報がありましたので、2学期の指導に活用していただけますようお願いいたします。

今、全国的に流行している変異株は、感染力が強く、従来の接触感染に加えて、飛沫感染のリスクが高いことがクローズアップされています。会話や咳等から排出される飛沫が飛沫核という更に小さい微粒子となり、空気中のウイルス量が多くなります。密閉された空間では、潜在的な空気感染があり、ウイルスを吸い込むリスクが高くなります。接触感染には、手洗い、消毒が有効ですが、飛沫感染を防ぐためには、**換気と正しいマスクを効果的に着用すること**がとても大切です。

デルタ株

感染力が強く、密閉空間ではウイルスを吸い込むリスクが高くなる。

マスクをしていない状態の飛沫量を比較すると、不織布マスク着用では、ウレタンマスク着用では、

マスクの種類	吐き出し量	吸い込み量
マスクをしていない状態	100%	100%
不織布マスク着用	約20%	約30%
ウレタンマスク着用	約50%	約70%

マスクをしていない場合の飛沫量を100%とすると、不織布マスクでは吐き出し量約20%、吸い込み量約30%まで減少することができます。それに比べてウレタンマスクでは吐き出し量約50%、吸い込み量は約70%となってしまう、空気中の飛沫核を吸い込んでしまうリスクが高くなってしまいます。

マスクは正しく着用しよう！

児童には、正しいマスクのつけ方と、マスクを外した時は人との距離をとり、話さないことを改めてご指導ください。

マスクは正しく着けなければ意味がない！

①鼻と口の両方を確実に覆う
②ゴムひもを耳にかける
③隙間がないよう鼻まで覆う

①紐マスク
②ゴムマスク
③わがわがマスクを外して話す

①紐マスク
②ゴムマスク
③わがわがマスクを外して話す

正しいマスクの着用

引き続き、健康観察の徹底をお願いします。児童本人は元気でも、家族に発熱等の体調不良者がいる場合も全校を控えるようご指導ください。その場合は出席停止扱いになります。

◎裏面もご覧ください⇒

保健室より先生方へ 令和3年8月20日保健室

夏休み明けは、熱中症対策にも重点をおいてください。

屋外であっても、近くで飛沫をあげれば感染のリスクがあります。マスクを外す時の注意点をご確認ください。

- マスクを外しているときは、基本的に話をさせない。
 - ・準備体操なども、しっかり間隔をとって「1234…」
- 体育等ではマスクを外させ、人との距離がとれる体形を！
 - ・集合して先生の話を聞く時は話さない。
 - ・話をする必要がある時は、距離をとるよう指示。
- 体育活動前、中、後で必ず水分補給の声かけを！
 - ・水筒は間隔を開けて置くよう指示。
 - ・水分補給場が密にならないよう時間差をおいて誘導。

温度管理&効果的な換気を行ってください！

コロナ対策には、換気が不可欠ですが窓を全開にしていると、エアコンが効かず熱中症のリスクが高くなります。

温湿度計をこまめにチェック！

夏の適温：28℃以下
快適温度：50～60%

常時、上部の四方の窓は10cm程度開けて空気の通り道を作ってください。床下の窓を開けておくことで2段階換気が行われ室温変化を防ぐことができます。

換気扇の時はカーテンを開ける

換気扇&サーキュレーターを活用を！

換気扇のスイッチは前方の壁にあります。

換気用：昼間の空気を外へ出す

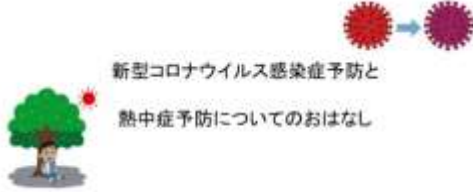
吸気用：外の空気を中へ送る

◎裏面もご覧ください⇒

2 児童への指導 ～ICTの活用～

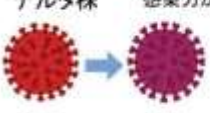
2学期の開始にあわせ、教職員へのお便りの内容をパワーポイントにまとめ、全校児童に指導した。また、児童の実態に応じて、必要な時に繰り返し活用できるよう、教職員の共有フォルダに保存し活用する予定。

2がっきのはじめに




新型コロナウイルス感染症予防と
熱中症予防についてのおはなし

デルタ株 感染力がとても強い




おしゃべりのしぶきには
ウイルスがいる可能性があります。

マスクを正しくしていないと...
ウイルスを吸い込むリスクが高くなります。



マスクは正しく着用しよう！

マスクは正しく着けなければ意味がない！



鼻マスク 鼻はしマスク わざわざマスクを外して話す人

正しいマスクの着用



- 鼻と口の両方を確実に覆う
- ゴムひもを耳にかける
- 隙間がないよう鼻まで覆う

でも、熱中症予防のために...



- 暑くて苦しいとき
- 体育など激しい運動をするとき
- 休み時間に外で遊ぶとき

は...マスクを外します！



屋外でも、近くで飛沫(しぶき)をあげれば感染のリスクがあります。

マスクを外す時の注意点を確認します！



マスクを外しているときは、話をしない。



体育等ではマスクを外し、人との距離をとる。

- 集合して先生の話を聞く時は話さない。
- 話をする必要のある時は、距離をとる。
- 準備体操なども、しっかり間隔をとって「1234…」



水分補給をするときは...

- 体育活動前、中、後で必ず水分補給をする。
- 水筒は閉蓋を閉けて置く。
- 水分補給場が密にならないよう時間差を置いて行動する。





- 毎朝体温をはかり健康観察をしましょう。
- 体調が悪い時は、学校はお休みし、家でゆっくり休みましょう。
- 家族で体調が悪い人がいるときも、学校はお休みし、家でゆっくり過ごしましょう。
- 心配なことがあったら、先生やおうちの人に相談しましょう。



2学期もみんなが元気に楽しく生活できるように
一人一人が思いやりの気持ちをもって行動しましょう。

おわり



9：校内連携④（小学校）

取組内容	テーマ	新型コロナウイルス感染症の対応について（マニュアル作成等）
	取組に至った経緯	<p>新型コロナウイルス感染症の疑いや濃厚接触者の対応について、保護者への対応、関係機関への報告方法等、校内での共通理解を図る必要があった。</p> <p>クラスター発生時に備え、校内での対応等について準備が必要だと考えた。</p>
	実施時期	令和2年6月、令和3年1月
成果と課題	成果	<p>毎日の健康観察や保護者からの連絡に対して、必要な情報の聞き取りや対応がスムーズにできた。</p> <p>また、必要な備品の確保や校内でのシミュレーションを行うことができた。</p>
	課題等	校内の共通理解だけでなく、中学校（兄弟関係）との連携も必要。

9：校内連携⑤（小学校）

取組内容	テーマ	「新型コロナウイルス感染症拡大防止徹底についてのお願い」の発行		
	取組に至った経緯	<p>感染拡大が続いているが、長引く感染対策への「慣れ」によって危機感が薄れ、体調不良でも登校したり解熱後すぐに登校したりするケースが増えることが予想された。</p> <p>学校としての方針を明確に提示し、職員も共通認識のもと体調不良者への対応にあたるよう、文書を発行した。</p>		
	実施時期	令和3年度 1学期	補足資料	有
成果と課題	成果	<p>文書を発行したことで、発熱等風邪症状のある時は、登校を自粛することや、解熱後2日は登校しないということについて、家庭の理解を得やすくなった。</p>		
	課題等	<p>今後も危機感の薄れによって対応にばらつきが出ないように、定期的に学校としての方針を示していく必要がある。</p>		

【補足資料】9：校内連携⑤（小学校）

「新型コロナウイルス感染拡大防止徹底についてお願い」

令和3年4月1日現在（4月8日より実施）、
小学校

学校生活上の新型コロナウイルス感染症拡大防止についての配慮事項（改定版保護者配付用）
※学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（2020.12.3Ver.5）
文部科学省を基に改定しました。なお、改定箇所は、「★」をつけています。

★ レベル1 レベル1（令和3年4月1日・より）

【基本方針】

- 1 感染のリスクがある活動・行動は極力行いません。
- 2 教育活動は、考え得る範囲、できる限りの範囲で対応策を講じた上で、可能なことを実施していきます。

【大原則】

- 1 マスクは学校教育活動に関するすべての活動で着用させます。★（特別・特別特別科）
- 2 手洗いの徹底をします。★教室移動の際は必ず手洗いさせます。
- 3 校内外の壁（特にトイレの両面の壁）など、不必要な場所・部分にさわらないことを徹底指導します。
- 4 換気を徹底します。

【★全校一斉再指導内容】

- 1 マスク着用を徹底します。
- 2 手洗いを徹底します。
- 3 不必要な会話は、しません。
- 4 咳エチケットに注意します。
- 5 ウイルス感染してしまった際の風見・差別をなくし『いじめ』に繋げません。

【保護者へ依頼事項】

- 1 児童のマスク着用徹底をお願いします。
- 2 マスクの子供を学校に置きます。
・名前を書いた袋にマスク1枚を入れ、クラスで保管します。（濡れた・汚した時等に使用）
・マスク忘れの際は、学校で貸し出しますが、新品を返却してください。
- 3 毎朝の体温と健康観察カード記載の徹底をお願いします。
- 4 お子さんやご同居のご家族の方に体調不良、特に発熱等の発症が見られる場合は、登校を見合わせ、自前で治療をお願いします。なお、状況により出席停止の扱いをいたします。担任までお申し出ください。
- 5 お子さんの登校後に発熱等の症状が見られた場合は、別室（保健室以外の場合もあり得ます。）にて待機の上、保護者にお迎えの依頼をいたします。
- 6 感染が疑われる（濃厚接触者、PCR検査等の対象者になる等）場合には、学校へ速やかにご連絡ください。
- 7 昇降口は7：50にあげます。★登校時刻は、7：50～8：10です。それに合わせて登校させるようご配慮ください。（学校ごとに指導をします。）

欠席の際の連絡方法について

家族以外の保護者・児童同士の接触をできる限り防ぐため、当分の間、欠席の際の連絡は、学校への電話といたします。
（受付 8：20～8：30 TEL）
また、欠席された際は、放課後等に担任より連絡をさせていただきます。

【その他】

- 1 毎日放課後に、教職員による「★消毒タイム」を実施します。
- 2 ★教職員による消毒の時間を確保するために、下校時刻が以下になります。
★・5時間の日……15：10 ・6時間の日……16：00。

【配慮事項】

- （朝、登校時など）
- Q：検温をしないで登校・健康観察カードを忘れて登校の場合はどうしますか。
A：教室に入らず、職員室へ行かれます。（原則として、教頭・教務主任が対応します。）
職員室にて、検温後に教室へ行かれます。
- Q：登校時（下校時）は児童も話しながら来る（帰る）と思うので、どうしたらよいですか。
A：①原則、1列で登校し、密にならないよう、靴の距離分（奥行分）をゆめやすに前者と間隔をあけます。また、他の班との接触は避けるために、班を追い越したり、なるべく並列にならないように指導をします。
②登下校時に苦しいと感じた場合、マスクをとっても構いません。ただし、マスクをとった場合は、口を閉じて話さないようにすることが前提です。
③下校指で密集を避けるため、できるだけ距離を置くよう配慮します。
★④学校に入る時刻を7：50～8：10とします。
⑤あいさつは、マスク着用で行います。大きな声を出す必要はありません。
⑥朝、教室に入る前にも手洗いを徹底します。

- Q：朝マラソンは行いますか。（朝の校庭開放は休み時間の項目で）
A：★当分の間、「健康観察前の朝マラソン」（全学年一斉）は行いません。健康観察後に学校ごとに実施する日があります。

Q：乗前の時間はどのようにしますか。

- A：①★当分の間、体温チェック等健康状態確認のため、全て『学級の時間』とします。
②音楽朝会、児童集会なども★当分の間は実施しません。
③全校朝会は「放送」とします。
④朝の図書室の利用は各学年で密集しないよう、担任が配慮して行います。
★朝の健康観察後に、学校ごとにドリル学習・読書・体力づくり等を行います。

（授業時）・・・別途配付の「学校行事・学習内容等について」の文書も参照ください。

- Q：授業についてはどのような配慮をしますか。
A：①当分の間、児童同士の小グループでの話し合い活動は感染レベルに応じて適度な距離をとって行います。
②机は前向きでの学習となります。
③教科によって（教師が複数つける場合）は、少人数指導とします。

- Q：授業中の話し合い活動・グループ活動はどうなりますか。
A：①やむを得ず、グループで話し合いを行う際にはある程度の距離をとります。
②グループの人数を少人数にします。（2～3人）
③グループでの活動は、極力減らします。屋外であっても、距離をとります。
- Q：学活や道徳など話し合いが中心となる授業については、どうなりますか。
A：小黒紙、画用紙などを利用し、意見の集約は教師が行うなどの工夫をします。
- Q：教室の机の配置（人数の多いクラス）は間隔をあけても密になるのは、どうしますか。
A：①可能な限り間隔をあけます。
②教科によって、多目的室・体育館・回廊等を活用し、少人数とします。
- Q：プリント・テスト類の配付はどのようにしますか。
A：★手洗い・マスク着用を徹底した上で、子供同士による配付も行います。
- Q：体育の時間はどうなりますか。
A：①屋外での活動は、マスクを外させて行います。ただし、児童がマスク着用を望む場合は、着用したままの活動となります。体育館での活動も同様となります。
②整列時等2m以上の間隔をあけます。
③★道具・器具・ボールの使用をします。
④児童に授業の開始前、終了後、手洗いの徹底をします。
- Q：体育時に外したマスクはどのように扱いますか。
A：①外すマスクについては、体育の時にチェック付きビニール袋などの袋を持ち、下足箱に収納します。（★予備も含め、1学期に一人2枚、学校で用意しました。それ以上は、ご家庭でご準備ください。）
②外に出る際、マスクを袋に入れ、自分の下足箱に袋を置き、外に出ます。
体育館については、入り口の下駄箱に置くか、体育館のステーションに置くなどで対応します。
- Q：音楽の授業についてどうになりますか。
A：①★マスクを外して行う場合には、一定の距離を保った上で、主に体育館や校庭などで、歌壇や口に触れる楽器（リコーダーや鍵盤ハーモニカを使用等）での学習も行っていきます。
②★楽譜の学習やリズム打ち、楽典等の学習は、教室・音楽室等で行います。
③★教室内で歌唱指導は、マスク着用のまま、通常に話し声程度の大きさの声で行います。換気を十分にいきます。

- ★Q：家庭科の調理実習についてどうになりますか。
★A：①マスク着用・手洗い・可能な限り密にならない等の配慮をしながら実施していく予定です。
②給食の際は、給食時同様の配慮をします。

- ★Q：総合的な学習の時間等で、外部講師等を招聘して授業を行う場合の配慮を教えてください。
★A：学校外からの来校者で児童と関わる可能性がある場合には、「検温・手洗い・マスク着用・アルコール消毒等の感染症予防対策」を実施した上で対応していきます。
（休み時間）
Q：校庭開放はどのようにしますか。
A：①朝マラソンは行いません。朝の校庭開放も★当分の間行いません。
※健康観察ができていないため、教師の目が行き届かないため。
②★手洗い・マスク着用の上、校庭及び遊具の使用を可能とします。
※業間15分休み・昼休みのみ。
- Q：外遊びする上での制限はありますか。
A：★当分の間、熱中症対策を最優先とします。「暑さ指数IV（厳重警戒・暑さ指数2.8℃以上・気温31℃以上）」の際は、外での活動は中止とします。
なお、理科での観察や体育時等、教師の指導下にある場合は、暑さ指数IVまでは活動可能ですが、「暑さ指数V（危険・暑さ指数3.1℃以上・気温35℃以上）」の際に外での活動を中止とします。
①外から戻ったら、必ず手洗い・うがいをさせます。
②★遊具使用は、使用前後の手洗いを徹底した上で使用します。
※職員による消毒を定期的に行います。
③原則としてマスクは着用です。
★児童同士の接触がある遊びは、行わせません。

- Q：屋内での活動はどうなりますか。
A：必要以上に出入りせず、読書など、自分の机でできることをします。
- Q：友達同士会話をしてもよいのですか。
A：マスクは必ず着用します。また、正面でない方向をします。必要以上に近づかない状態となります。

- （給食）
Q：給食の指導については、どうになりますか。
Q：給食後の歯磨き指導については、どうになりますか。
A：①★開始時の配膳台は教師が拭き、消毒をします。
②★児童は手洗いとアルコール消毒を行います。
③★前向きで無言で食事をします。（机の移動はしません。班にしません。）
④配膳は自分で行われます。（給食当番以外）
⑤高学年は人数が多いので、2教室に分けて食事をします。
⑥6年生による1年生の給食の手伝いは、行いません。
⑦★当分の間、一斉歯磨きは、飛沫感染予防のため行いません。（うがいのみ）
⑧★フッ化物塗布は、当分の間行いません。
※⑦、⑧は、学校歯科医と相談の上決定しました。（完全に飛沫を飛ばさないこと

が難しいため、感染リスクを少しでも減らすため、各御家庭での歯磨きの徹底をお願いいたします。特に、下校後すぐが良いそうです。」
※歯科矯正器具を使用している等、個別に歯磨きを希望する場合は、担任にお知らせください。昼休みに個人で磨けるよう配慮します。」

Q：おかわりの際の器具の使用はありますか。」

A：①給食を完全させるため、多い少ないなどは配膳時に済ませ、出歩くことを極力減らします。」

②おかわりの際は、その都度手洗いをした上で、児童各自が行います。」

（清掃）

Q：清掃についてはどうしますか。」

A：①★マスクの着用と清掃後の手洗いを徹底します。」

②★通常清掃とします。ただし、床等は、「乾拭き」を原則とします。」

③★清掃中は特に「顔や目、口、鼻等の粘膜部分」は触れないよう指導します。」

④★掃除用具の消毒（持ち手の柄の部分等）は、定期的に担任が行います。」

Q：トイレ清掃はさせますか。」

A：★行いますが、ブラシ等の器具を使用した清掃のみとします。雑巾を使つての清掃は行いません。（放課後に職員で分担して行います。）

（集団活動）

Q：集会関係はどのようになりますか。」

A：①★児童集会、音楽朝会、など密が避けられない集会活動は、当分の間は行いません。」

②全校朝会は『放送』で行います。」

③★クラブ活動、委員会活動を計画的に実施していきます。」

Q：縦割り活動について、

A：★わくわくタイム（縦割り活動）は、段階を過って実施していきます。」

（図書室）

Q：図書室の利用（本の貸し出し）についてはどうなりますか。」

A：①★9月7日から、昼休みと水曜日の業間休みに貸出・返却を行います。」

②★家に持ち帰ることを可能とします。」

③図書室に入る前の手洗いを行います。」

④★返却後の本は、職員が消毒し書架に戻します。」

【その他】

Q：水筒の扱いはどうになりますか。」

A：①飲む前にも手洗いをさせます。」

②学級での飲む時間を決めます。」

③自分の席で飲むようにさせます。」

※机の横に掛けるようにし、他の人が間違つて触ったり、従来のように水筒を取りに行く際に密になつたりしないようにします。」

（マスク・ハンカチ・タオルについて）

Q：マスク忘れはどう対応しますか。」

A：マスク忘れについては、保護者への説明事項のとおり、マスクの手簿を1枚事前につけてきてもらいます。（手簿は担任管理）さらに手簿分の支援等がある場合、学校で渡しますが、後日、家庭から新品での返却をお願いします。」

Q：ハンカチ・タオル等の扱いはどうするのか。」

A：①原則児童が毎日持ってきます。」

②手簿として学校に（机の中に）1枚保管させます。」

③2枚以上持たせても良いです。」

④毎日新しいものを使用するよう指導します。」

（消毒について）

Q：消毒についてどのように行いますか。」

A：①まずは、体育や移動教室で行く前には、『必ず手洗い』の徹底をします。」

②施設・設備等の消毒はドアノブ・トイレのレバー・階段の手すり等、多くの児童が触れる場所は、教職員が毎日消毒をします。」

③★鉄棒等の遊具は、「体育等授業時に使用する際は、使用前に消毒をします。」

④★体育で使用するその他の用具・器具等は、使用後に消毒をします。」

【問合せ先】
教頭
電話

重要

令和3年6月4日

保護者 様、

小学校

校長

新型コロナウイルス感染症拡大防止徹底についてのお便り

初夏の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと拝察いたします。また、日頃より、本校教育活動に対し、ご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。」

さて、新型コロナウイルス感染症の学校内感染を防ぐために、毎日の健康観察やマスク着用、手洗いの徹底等ご協力をいただいておりますが、「感染症拡大防止徹底」のため、下記の点につきまして、あらためまして、ご協力をお願い申し上げます。」

記、

1 出席停止扱いの場合、

(1) 発熱等体調不良により学校を休むこととなった場合及び、早退の場合、

※症状が治まっても、概ね2日程度、自宅にて引き続き健康観察を行い、登校を見合わせてください。」

※発熱等体調不良時の早退は、その時点で「出席停止」となります。この場合、通知表に早退ではなく、出席停止と記載いたします。」

(2) 児童、家族（同居または接触のある家族）がPCR検査を受ける対象者となった場合、その結果が出るまでは、登校を見合わせてください。」

(3) 児童の同居家族の方に体調不良、特に風邪の症状（発熱、喉の痛み、咳 等）がみられる場合は、登校を見合わせてください。」

2 その他、

(1) 同居または接触のある家族がPCR検査対象者となった際は、学校へのご連絡をお願いいたします。検査結果が出る日等、詳細をお伺いいたします。ご了承ください。」

(2) 最近、家族が体調不良により医療機関にかかるとその時点でPCR検査となるケースが増えてきています。この際、児童や生徒が登校していた場合、急遽、早退をさせることになるとともに、校内の消毒作業が必要となることがあります。」

本校では、上記1の(2)による対応のご協力を重ねてお願いいたします。」

【問合せ先】
教頭
電話

9：校内連携⑥（小学校）

取組内容	テーマ	教職員研修・校内連携を軸とした保健管理と保健教育の推進		
	取組に至った経緯	<p>感染状況が日々変化する中で、状況に合った学校の対策を教職員が理解しておく必要があると考えた。</p> <p>そこで、管理職・学年主任を中心に協議を重ね、学校独自のガイドラインを作成し、それをういて教職員研修（消毒方法・児童への指導を含む）を行った。</p>		
	実施時期	令和2年4月、8月	補足資料	有
成果と課題	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で統一された感染症対策を実施することができた。 ・教職員の感染予防に対する意識が向上した。 ・常に様々な担当と相談する機会が生まれ、情報連携が活発になった。 		
	課題等	<p>実施時期の見極めが大切である。突発的に短時間で発信していくことと、少し先を見越して、計画的に準備を行い、ある程度の時間を確保して研修の場を設けることを合わせて行う必要がある。</p>		

【補足資料】 9：校内連携⑥（小学校）

教職員研修・校内連携を軸とした保健管理と保健教育の推進

「研修資料」

ガイドライン（一部抜粋）

～本ガイドライン（一部抜粋）は、令和2年4月、一斉臨時休校明け時点で職員研修で実施した際に活用したものです。現在はガイドラインを見直ししながら、地域の感染状況等に併せ実践を積み重ねています。～

2020.5.26 教職員

新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン（分散登校）

【学校教育活動のリスク】 どのような活動をするときも、感染予防の観点を忘れずに…
 ■ 【3密 密閉：密閉空間 ②密集：人の密集 ③密接：近距離の会話・『共用』】を避ける

【実践事項】

登校

① 登校前に家庭で検温・健康観察の実施。用紙は切り取り式の健康観察表にし、校門（2か所）で回収のみ行う。回収できない子のみ非接触型体温計で検温を行う。（担当：担任）
 ② 集合時は密集を避けるように気を付ける。
 ③ 一列で歩き、会話を控える。（飛沫の飛散を避ける）

学校生活

① 登校後、各自手洗いをを行う。
 ② ろうか（担当：担任）・教室（担当：担任）の窓（2方向）を開ける。
 基本は1日中開放。冷房を付けても、窓は開けておく。
 ③ 教室では自席に着席。互い遠いになるように配慮する。【図1】
 ④ 新マラソンは実施しない。ボール・道具の使用は無し。
 昇降口の混雑を避けるため、時間差で教室に戻る。（放送：担任）
 ⑤ 朝の会で出欠確認（通常の健康観察簿AM『無』・PM『無以外』）で記入→保健室に提出
 毎時限、授業終了時に特別健康観察を実施。担任が確認・記録。ドア付近につくす。
 体調不良者は早退。【図2】移動教室には、児童が持参し、担当教員が健康観察を実施する。
 その後、学級に返却。
 ⑥ 早退待機室には担任が引導し、職員室で家庭へ連絡する。その際、教頭先生に報告し引き継ぐ。
 （早退待機室担当：教頭）連絡がつかなかった場合は、保健室にもその旨を報告する。
 ⑦ 当番、清掃は行わない。
 ⑧ 登校班で下校。学童班は、学童へ教員引導のもと移動。

給食

① 給食前全員池ハンドソープでの手洗いをを行う。
 ② 「牛乳とパン」時は、担任（教員）が配る。
 ・ 食物アレルギー児童の机には配らないように注意する。
 ・ 片付け時の唾液の飛散・付着には十分配慮する。（終了後手洗い）
 ・ 前向き給食・会話は控える。
 ※ 担任は検印と一緒に食べる。補助食は、休憩時間に摂る。

下校後・放課後

① 前半下校後、消毒用セットを職員室に取りに来る。※詳細裏面
 消毒薬で施設消毒を行う。水拭き（二度拭き）は後半下校後に行う。
 ② 放課後、担任が教室扉をほうきで掃く。
 ③ 放課後の消毒は入念に行う（机・いす・教卓・スイッチ・ドア・給口）→ 10分後 → 水拭き
 ・ 施設清掃消毒（適宜・教職員等）・手すり ・トイレ（床・便器・履物・ドアノブ・ボタン）

【その他】

- 教科担当は、教員が学級へ行く形態にする。（やむを得ず特別教室を使う場合は、アルコール手指消毒をする。事前申告をお願いします）
- 移動場所から教室に到着してきた後、くしゃみや喉が痒に付着した時は、手洗いをを行う。
- 6月1日「感染症予防の過ごし方」について、全学級で学級指導を実施。（A3資料6枚）
- 図書貸出し（図書室・学級文庫）はしばらく停止する。
- トイレトペーパー・固形石鹸は学年主任が管理。（ペーパー保管場所：北1F清掃用具庫）
- 保健室の機能の維持：学級教意箱で対応。クールダウンや決りに対しても学年で対応。
 ・ 体調不良者その他の出入口を分け。動線が重ならないようにする。
 ・ けがなどは、保健室のベッド反対側に配置。けがの早退待機は、別室も検討する。
- 熱中症対策（水分補給+換気）水筒は近くに置いてよい。隣の席がないので、机のフックにかけてもよい。
- 授業の注意事項 ※別紙【当番実施しない：調理実習、理科実験、音楽の合奏・リコーダー指導】
 体育は感覚を開ける。マスクは袋に入れて、ポケットに入れる。密着・密接に注意する ※

【図1】 図1: 非接触型体温計と検温実施のイメージ

【図2】 図2: 健康観察 異常あり

健康観察 異常あり
早退・早帰便室
早退待機室で検温（中庭倉庫裏）
37.5℃以上の発熱 症状の悪化を懸念
保健室 継続観察
家庭の下下・呼吸器の悪化 教員誘送

【補足資料】9：校内連携⑥（小学校）

○研修パワーポイント（一部抜粋）

（学校再開時）

（2学期が始まる前）

9：校内連携⑦（中学校）

取組内容	テーマ	感染者発生時の電話聞き取り票
	取組に至った経緯	新型コロナウイルス感染症発生の第一報は、本校においては教頭が一括して受けることになっている。教頭不在時に連絡が入る可能性も考えられ、電話対応した教員が、保護者等から聞き取るべき内容が分かるよう、各電話脇に「感染症連絡記録票」を設置した。
	実施時期	年間
成果と課題	成果	現在、陽性者報告はないが、家族が感染し濃厚接触となった際の聞き取りの参考にもなり、情報の報告・共有がスムーズにできた。
	課題等	職員から追加して聞き取りが必要な項目の意見をもらい、随時改善が必要である。

9：校内連携⑧（中学校）

取組内容	テーマ	スクールカウンセラーと連携した「心の健康」		
	取組に至った経緯	<p>修学旅行が延期になり、部活動も引退し、受験が身近になっている状況がある。</p> <p>日頃から校内でお世話になっているスクールカウンセラーから話をしてもらうことで、コロナ禍でも感染せず、前向きに乗り越えてほしいという思いで取り組むこととした。</p>		
	実施時期	令和2年6月	補足資料	有
成果と課題	成果	<p>「シロでもないクロでもない世界でこころを健康に」というテーマで行った。これまでとこんなところが違ったらという視点から、早めのSOSを出すこと、考え方を変えてみることなどを生徒が学ぶことができた。</p>		
	課題等	<p>伝わった生徒と、自分事として理解することが難しかった生徒が見られた。保健だよりや、掲示などを通して、一人でも前向きに生活できるよう、相談室とも連携し継続的に支援する。</p>		

【補足資料】 9：校内連携⑧（中学校）

スクールカウンセラーと連携した「心の健康」

6月23日『シロでもクロでもない世界でころを健康に』という題目でスクールカウンセラーにお話をいただきました。

👤人が考えたり行動する背景にはイロイロな事情、経験がある。

👤シロかクロの極端思考でなくイロイロな考え方を！

👤シロかクロだけでなく、皆がイロイロな事情を持っていると考えることが、あなたの心も、脳も、あなたの周りの人の心も、脳も健康にする！

という大変興味深い内容でした。

職員室まえに掲示します！ぜひご覧くださいね。



こころの病気について

・頑張り屋さんがなりやすいので、「甘えているだけじゃないか…」「私よりもっとつらい人がある…」「私はこんなに恵まれているのに…」「期待に応えなきゃ…」「人に心配かけたくない…」など、なかなか自分で病気だと認められません。

・そして、こころの病気の怖いところは、人の脳の機能、つまり考える力や判断する力、行動する力、前向きに考える力などを低下させることもあります。

早い段階で、

「今までと違う…」と、気付くことが大切になってきます。

(早期発見)

みんなの脳はまだまだ成熟途上にある！

・どのような相手に対しても共感的に振る舞い、人間として尊重し、認めていく脳の機能はとても高度なもの。

・脳の前頭葉、眼窩前頭皮質という領域で行われる。

・脳の髄鞘化により、脳は成熟する。

・前頭前野の髄鞘化は7歳～9歳くらいでようやく開始し、25歳～30歳くらいにようやく完成する！

・「若気の至り」=前頭前野が完成していないため抑制が効かなかったり、危険をうまく予知できず、蛮勇をふるうことも。

⇒脳科学的には前頭前野が未成熟なため相手への共感や抑制が不足し、適切な判断ができない。だから、失敗しながら人間関係を学べばいい！



体内時計を整える12カ条

起床 朝	体内時計をリセット!	第1条 朝起きたらカーテンを開け、日光を取り入れましょう。	第2条 休日の起床時刻は平日と2時間以上ズレないようにしましょう。
日中	しっかり活動!	第3条 1日の活動は朝食から始めましょう。	第4条 昼寝をするなら、午後3時までの20～30分以内にしましょう。
夕	メリハリが大切!	第5条 軽い運動習慣を身につけましょう。	第6条 お茶やコーヒーは就寝4時間前までにしましょう。
夜	脳とカラダの興奮をさげる!	第7条 就寝2時間前までに食事を済ませましょう。	第8条 タバコは就寝1時間前にはやめましょう。 ※もちろん、健康のためには禁煙が原則ですよ!
就寝		第9条 就寝1～2時間前に、ぬるめのお風呂に入りましょう。	第10条 部屋の照明は明るすぎないようにしましょう。
		第11条 寝酒はやめましょう。	第12条 就寝前のパソコン、テレビ、携帯電話やテレビゲームは避けましょう。

※参考資料＞睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究会編「睡眠障害の診断と治療ガイドライン」, 2009

9：校内連携⑨（中学校）

取組内容	テーマ	新型コロナウイルス感染症対策マニュアル ～〇〇中学校ver～		
	取組に至った経緯	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、本校における感染症対応マニュアル（課業日、長期休業日、修学旅行、濃厚接触者特定およびPCR検査の対応）についてまとめた。		
	実施時期	年間	補足資料	有
成果と課題	成果	新型コロナウイルス感染症に関する膨大な情報を整理し、マニュアルを作成することで、管理職、全教職員、学校医と共通理解を図り、学校運営に生かすことができた。		
	課題等	国、県、市の動きや、新型コロナウイルスの感染状況に注視しながら、今後もマニュアルを見直していきたい。		

【補足資料】 9：校内連携（中学校）

「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」

1 課業日

○登校日の対応について

（自宅健康観察→昇降口健康観察→教室健康観察→授業→給食→清掃→部活動→下校）

○健康観察について（登校時の流れ、事後措置） ○発生時の対応

○教育活動における留意事項

・対策（マスク着用、三密回避、手洗いの徹底、校内の環境衛生管理（ゾーニング、消毒、来校者への対応）） ・感染リスクの高い学習活動 ・給食 ・清掃 ・部活動

○関係資料

（健康観察カード、新型コロナウイルス感染症（疑い・風邪症状含む）報告等）

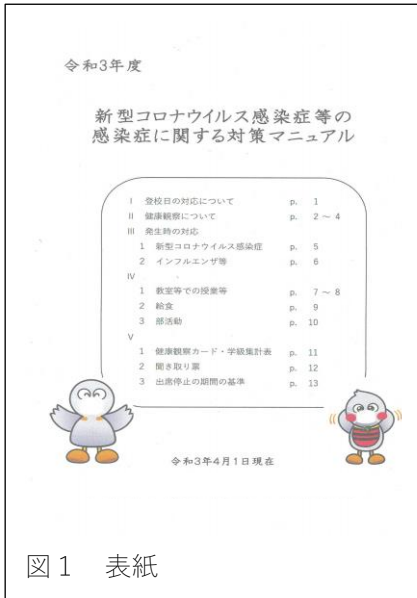


図1 表紙

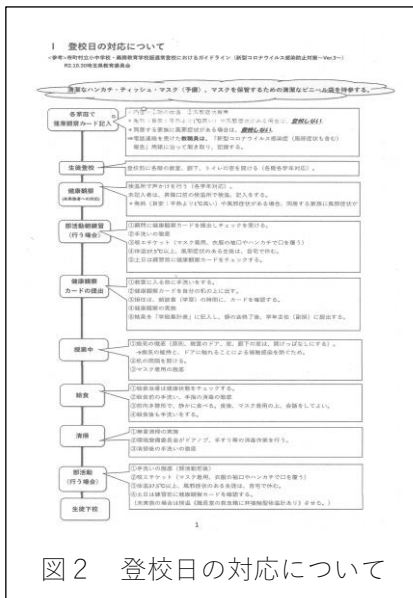


図2 登校日の対応について

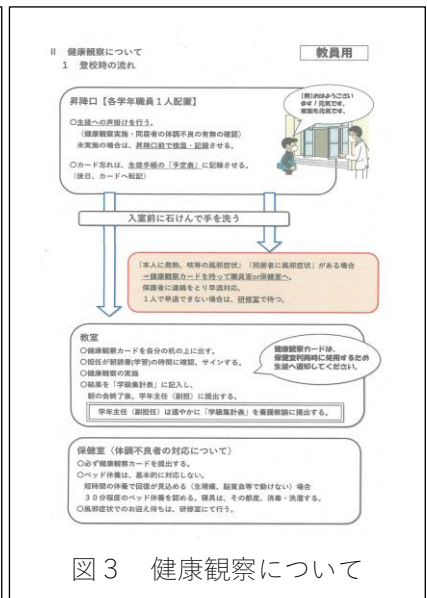


図3 健康観察について

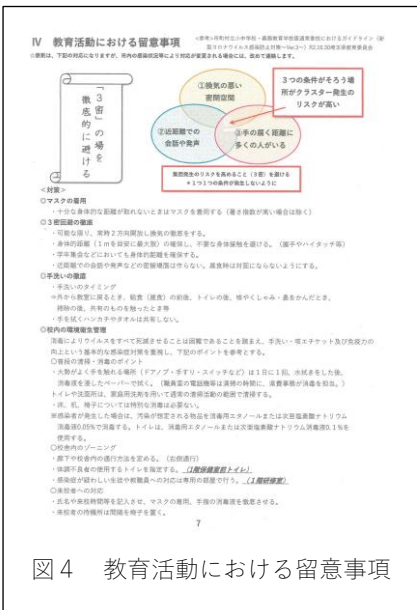


図4 教育活動における留意事項

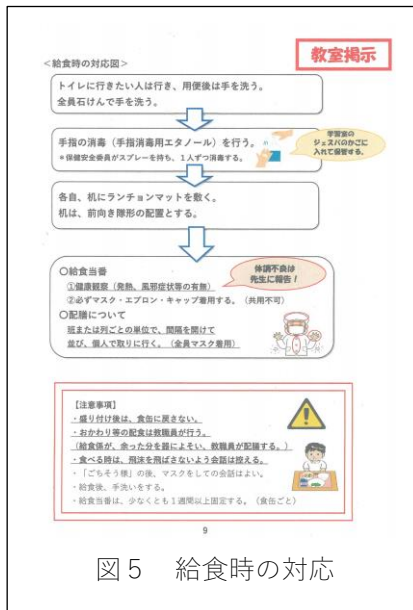


図5 給食時の対応

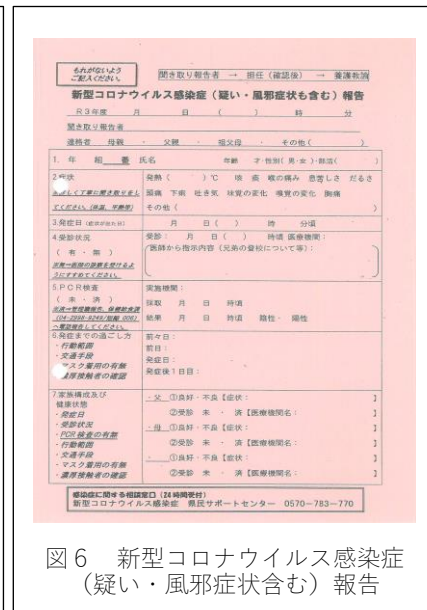


図6 新型コロナウイルス感染症（疑い・風邪症状含む）報告

【補足資料】 9：校内連携（中学校）

2 長期休業日

- 登校時の対応について（主に部活動顧問の動き）
- 日直について（欠席連絡の対応、PCR等検査の報告書作成、消毒）

3 修学旅行

- 参加可否について（職員も同様）
- 旅行中、陽性者・濃厚接触等が出た場合の対応
 - ・医療機関への搬送手段（けが、風邪症状）
 - ・医療機関リスト
- 健康観察について（検温1日目8回、2日目7回：職員が検温し、生徒自身が記録する。）
- 消毒、入浴の扱い（部屋風呂対応）、バス・新幹線車内の過ごし方、食事、就寝時の対応
- 保健室から持っていく救急用品（フェイスシールド、防護服等の感染症対策品も含む）



図7 主な消毒場所

令和3年度 修学旅行 感染症対策

令和3年9月29日
中学校 保健室

1 参加可否について（職員も同様）

時期	本人の症状・状態	本人の参加可否	修学旅行の実施・継続の可否
前日まで	陽性者と特定	不可	保健所の指示に従う
	PCR検査等受検待ちまたは結果待ち	不可	可
	濃厚接触者と特定	不可	可
	濃厚接触者と特定（検査これから）	可※	可
出発当日	前日5項目は出発日も同様の対応	不可	可
	本人もしくは同居者の風邪症状および副反応	不可（保護者迎え）	可
旅行中	発熱等の風邪症状・副反応	相談窓口の指示を仰ぐ	別室待機
	PCR検査等受検待ち又は結果待ち	離隔（隔離）	保健所の指示に従う
	陽性者と特定	離隔（隔離）	保健所の指示に従う
	濃厚接触者と特定	離隔（隔離）	保健所の指示に従う
	発熱等の風邪症状・副反応	離隔（隔離）	可
	PCR検査等受検待ち又は結果待ち	離隔（隔離）	可
	陽性者と特定	離隔（隔離）	保健所の指示に従う
	濃厚接触者と特定	離隔（隔離）	保健所の指示に従う

※ 同居者の濃厚接触者と特定され、その後検査の結果、陽性者と特定された場合はその時点で旅行参加不可（旅行中の場合は離隔）とする。
 ☆ 生徒本人が陽性者または濃厚接触者と特定された場合でも、出発までに退院（自宅療養の解除）となる場合は参加可能
 ☆ 前日までの出発状況に注意。特に出席停止者数は注意。状況によっては実施の可否を判断。
 ☆ 相談窓口…

図8 参加可否について

2 旅行中、陽性者・濃厚接触等が出た場合の対応

本人の状態	対応	対応者	保護者
発熱者、体調不良等	別室に待機（個室） ※バス・新幹線移動中は、目的地まで行き難い。職員付き添いのもと、保護者の迎えを待つ。 男子→（ ）先生 女子→（ ）先生 相談窓口の指示を仰ぎ、必要であれば受診	基本は教職員1名	下配のいずれかに該当する。現地までの迎えを依頼 ・検査が必要となった場合 ・濃厚接触者と特定された場合 ・陽性者と特定された場合
検査が必要	医療機関の指示に従う 検査を待つ場合は別室隔離（個室）		
陽性者	保健所の指示に従う		
濃厚接触者	別室に隔離（個室） 保健所の指示に従う		

※ 別行動時の集団の動き…生徒が学校携帯電話に連絡し、チェックポイントの教員・養護が対応する。
 ※ 帰路で体調不良の場合、バスには乗せず、大宮駅で保護者に引き渡す。
 ※ 保護者の迎えが必要となった場合、教員1名が現地に残り、生徒を引渡すまで対応する。

図9 旅行中、陽性者・濃厚接触等が出た場合の対応

4 濃厚接触者特定およびPCR検査の対応

- 濃厚接触者特定とPCR検査決定の担当者
- 聞き取りシート
- 濃厚接触者等の特定基準（保健所 HP・文部科学省）

濃厚接触者特定とPCR検査決定の担当者	＜参考＞保健給資料①	令和3年9月2日(木)
1 生徒の感染報告聞き取り PCR検査受検連絡（電話付近）有）	担当	備書
2 生徒の感染報告（PCR検査） 第一報 報告 → 保健給食課	管理職	事例が複雑な場合は管理職 管理職不在の場合は管理職 生徒 → 保健給食課、教職員 → 学校教育課
3 生徒のPCR検査報告書作成提出 （フォローワーバ）類（※）コロナ対応）	管理職	生徒 → 保健給食課、教職員 → 学校教育課 パスワードをかけて提出
4 陽性者（保護者）からの届出 【フォローワーバ）類（※）コロナ対応） 【保健 資料② 情報聞き取りシート） 濃厚接触者・接触者の特定 【保健 資料② 情報聞き取りシート） （PCR検査陽性者の場合）	管理職 管理職 管理職 管理職	聞き取りシートに記入 ※ 保健給食課に提出 学校 → 陽性者 学校 → 濃厚接触者・接触者を特定する
6 拡大PCR検査の会場の決定 ＜学校会場の場合＞ ・人数により保健室、研修室、体育館など（動線確認） ・職員分担（受付、検体採取補助、誘導、保険証等の確認） ・授業日は他の生徒から分からないように検査会場を配慮する。	管理職 管理職	管理職 → 学校医（PCR検査の依頼） ・学校医が難しい場合は市教委から市民医療センターへ相談 ※ 検査結果の報告方法について確認しておく。
7 拡大PCR検査対象保護者への連絡（電話、メール） 学校 → 保護者 ※ 保護者への通知は事前次元に確認する。 ※ 電話の場合は、台本を用意し、伝え方に準じたいようにする。 拡大PCR検査の対象者の通知等（かかりつけの病院の検査が必要）	管理職	保護者への連絡内容 【学校又は市民医療センターの場合】 ※ 発熱者や体調不良者は、かかりつけ医等で検査。学校でのPCR検査はできない。 ・ 検査費用の確認（公費負担） ・ 保険証の原本と間接コピーと子ども受検 届出の原本とコピーを持参する。 ・ PCR検査の結果がでるまでは家族も自宅待機をお願いする。 ・ 市民医療センターでPCR検査の場合は車のナンバーについて聞く。 【各自が病院で行う場合】 ・ 拡大PCR検査の対象に検査する通知を渡す。（公費となる可能性あり） ・ 検査結果の連絡を保護者にお願います。 ※ 検査を受けない生徒は学校医に相談し、2週間自宅待機をお願いする。

図10 濃厚接触者特定およびPCR検査決定の担当者

8 濃厚接触者の小学校の兄弟リスト作成（	学年職員	個人調査票等で確認する。
9 濃厚接触者の兄弟の小学校へ連絡	管理職 管理職	
10 PCR検査対象リスト作成 （フォローワーバ）類（※）コロナ書類） 【PCR検査名簿（保健給資料①） ・PCR検査名簿提出	教務主任 管理職	・C4thから住所、生年月日、電話等入力 ・パスワードを付けて提出 （市民医療センターで行う場合は保健給食課へ提出）
＜学校会場の場合＞		
11 PCR検査	学年職員 管理職	・机、椅子、名簿、プリンター ・教育委員会からの応援が必要な場合は、教育委員会へ依頼 ・職員がフェイスシールド、エプロン、手袋、マスク、消毒等 ・学校が会場の場合、市民医療センターのスタッフが20分前くらいに来校し、準備 ・保険証、子ども医療受給証のコピーに不備がある場合は、原本をコピーする。 ・保険証、子ども医療受給証忘れは緊急連絡カードをコピーする。（後で保護者に連絡） ・陽性者は病院から本人に連絡がある。
12 PCR検査実施	管理職	対応できる職員
13 PCR検査の結果 病院 → 学校 → 保健所・教育委員会 ※ 状況により変更あり	学年職員 管理職	一人でPCR検査した生徒の結果確認 ・保健所に一連の流れを説明し、結果の報告をする。
14 PCR検査の結果陽性者が複数いる場合 学校 → 教育委員会	管理職	学校医 → 保健所 ※ 学校医がいない場合は保健所に連絡 ・保健所 → 教育委員会と相談
15 保護者への連絡 （拡大PCR検査対象） 学校 → 保護者	学年職員 管理職	拡大PCR検査受検者の結果が出るまで自宅待機する。結果を電話で伝える。 ※ 自宅待機期間についても「お願い」として伝える。 【陽性の場合】10日間出席停止（発症日翌日から10日間、無症状の場合は採取翌日から10日間） 【陽性の場合】健康状態に問題がなければ登校可能。 ※ 陽性の濃厚接触者は、最終接触日翌日から14日間自宅待機（出席停止） ※ 1名1名検査またはリストアップ
16 全校保護者への通知	管理職	※ 土日の保護者からの陽性連絡は学校携帯（教職員） → 必要に応じて職員へ連絡 ※ 部活動の出欠等の記録 ※ 学校医 → 学年主任の場合は次女者情報システムの入力（管理職又は管理職） ・市・様式1；児童生徒がPCR検査を受検することになったら作成する。 ・ COVID19発生報告：学校の備蓄で決まった台本を使用する。 ・ PCR検査名簿：教育委員会を通じて医療センターへ提出する。（その他の会場でも実施の場合は必ず） ・ 聞き取りシート、配布表：生徒の陽性報告の第一報が入り次第作成し、学校医との検討時に使用する。

9：校内連携⑩（中学校）

取組内容	テーマ	「安心」「安全」を目指した保健管理 ～みんなで学ぼう「新しい学校生活」～		
	取組に至った経緯	学校経営目標の一つである「安心・安全な学校づくり」を目指して新型コロナウイルス感染防止対策に取り組んでいる。 令和2年度休校中に教職員向けに校内研修を実施後、校務分掌に分かれ生徒の学校生活における留意点について検討し感染対策を全教職員で準備。生徒向けにパワーポイント「新型コロナウイルス感染症で学校生活はどう変わる？」を作成し全校で視聴した。		
	実施時期	令和2年度1学期から	補足資料	有
成果と課題	成果	パワーポイントを作成、視聴したことで、全校で休校明けの学校生活の留意点について共通理解を図ることができた。		
	課題等	継続的に発信することが難しかった。		

【補足資料】9：校内連携⑩（中学校）

「安心」「安全」を目指した保健管理～みんなで学ぼう「新しい学校生活」～

1 休校中に実施した新型コロナウイルス感染症についての校内研修

2020. 4

「新型コロナウイルス感染症対策について」

1. 新型コロナウイルスの特徴

① コロナウイルスは、外側に油でできた脂質膜がある。脂質の膜のため、アルコールが効く。次亜塩素酸ナトリウム、通常の手洗い石けんも界面活性剤が入っているため、効果あり。ウイルスはそんなに強いものではない。慌てずしっかりと手を洗うことが大切！

② ウイルスは、プラスチックやステンレスの上では、48時間から72時間残るという実験結果あり。机の上の物はしっかり片付けること。


③ 若い人ほど症状がはっきりせず、見つけにくい。かかっても軽症である場合が多い。しかし、保護者や家族、教職員に拡大すると命の危険が増えてくる。医師でも感染しているかどうかを見極めることは難しい病気。

2. 学校での新型コロナウイルス対応の4つの原理原則

① 行動目標を分かりやすく決める。
生徒、保護者にも伝える。シンプルで分かりやすいものにする。

② 対策はみんなで行う。
生徒・親・医療者・学校みんなで対策を考えていく。情報の孤立は良くない。一緒にどう戦っていくかの対策を考えていく。状況を親にも伝える。

学校再開に向けての配慮事項についてー1

時間帯	気になる点	対応
登校時	① 時間帯は同一？ ② 体温表忘れは？ ③ 健康観察は？ ④ 教室までのルート ⑤ 担当割り振り？ ⑥ アルコールは？ ⑦ マスク忘れは？ ⑧ 遅刻者対応は？	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">校内研修会風景</div> 
朝の時間	① 健康観察は？ ② 体温表チェックは？ ③ 座席は？ ④ 窓の開放は？ ⑤ 朝練では？ ⑥ 相談室では？	
集会時	① 体育館移動？ ② 隊形は？ ③ 時間は？ ④ 窓の開放は？ ⑤ 教室移動？ ⑥ 教室移動は？	

校内研修会の新型コロナウイルス感染症関連資料

校務分掌会議での検討事項内容及び資料

2 全教職員で準備した感染症対策



R2 教職員で設置した体調不良生徒対応部屋



R3 教職員で設置した体調不良生徒対応スペース

3 パワーポイント「新型コロナウイルス感染症で学校生活はどう変わる？」作成・視聴

登校時

登校時は友達と歩いて、人と人との距離を取って歩きましょう。
ソーシャルディスタンスを多く取りますが、1～2mの距離を取りましょう。
お互いの動きのある場合は、さらにその間はとれるようにしましょう。



近い



遠い

この距離感は、人と人との間に手を伸ばすくらいですね。

朝教室で

- 教室に入る前に石けんで手を洗いましょう。⇒ 入室バージョンで
- 自分の名札を付け、自分の荷物を整理しましょう。
- 時間割によって着替えをしましょう。
- 人と人の距離、ソーシャルディスタンスを守りましょう。
- マスクをしていても大声で話さないようにしましょう。
- 人のものになるべく触れないようにしましょう。



近い



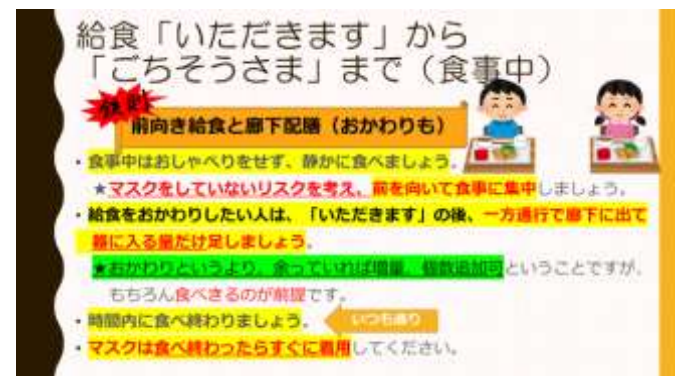
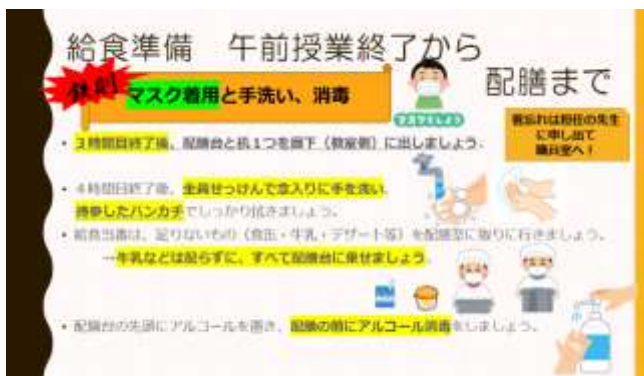
遠い

R2 作成 パワーポイント「新型コロナウイルス感染症で学校生活はどう変わる？」より抜粋 ～登校編～

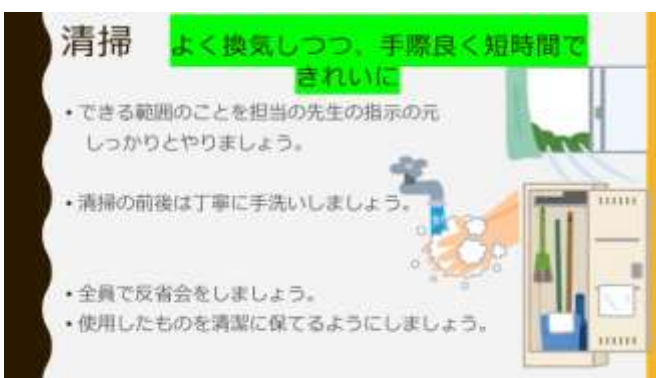
【補足資料】 9：校内連携⑩（中学校）



R2作成 パワーポイント「新型コロナウイルス感染症で学校生活はどう変わる？」より抜粋～健康観察編～



R2作成 パワーポイント「新型コロナウイルス感染症で学校生活はどう変わる？」より抜粋 ～給食編～



R2作成 パワーポイント「新型コロナウイルス感染症で学校生活はどう変わる？」より抜粋 ～清掃・放課後編～

9：校内連携⑪（高等学校）

取組内容	テーマ	三者面談時の感染症対策
	取組に至った経緯	昨年度の反省から、三者面談時の感染症対策が学級担任の裁量によって異なっていることがあげられた（パーティションの設置など）。統一した体制をとって、教職員及び保護者が安心して実施できるように保健環境部で検討した。
	実施時期	令和3年6月
成果と課題	成果	全学級に「パーティションの設置」「換気方法」「アルコール消毒液の設置」「消毒方法の周知徹底」「手指消毒の協力の呼びかけ（掲示物の設置）」の徹底が出来た。
	課題等	特になし

9：校内連携⑫（高等学校）

取組内容	テーマ	感染予防のための接触者制限
	取組に至った経緯	来校者と教職員の接触に制限を設けることで、外から持ち込まれる感染症に対する予防策を取りたい。そのために、事務室と連携を図ることで、来校者は校舎内に通さず、当該教職員が職員玄関に出向き、その場で対応することとした。 職員玄関近くの一室を、来校者の対応場所と定め、来校者と教職員との接触場所を限定した。 事務室前の来校者名簿には、体調・体温・万一の時のための連絡先・対応する職員名を記載していただくよう徹底した。
	実施時期	年間
成果と課題	成果	感染症予防に関する教職員の意識を高めるとともに、感染リスクを下げることができた。
	課題等	来校者は校内に入ることができないので、その都度、該当教職員に取り次ぐ必要があり、事務職員に負担をかけてしまった。